

経営比較分析表（令和4年度決算）

栃木県 下野市

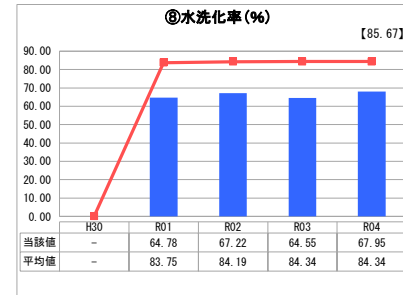
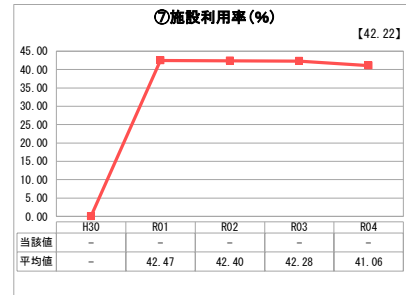
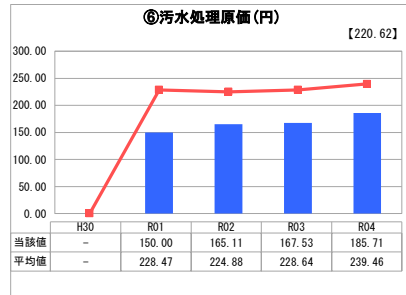
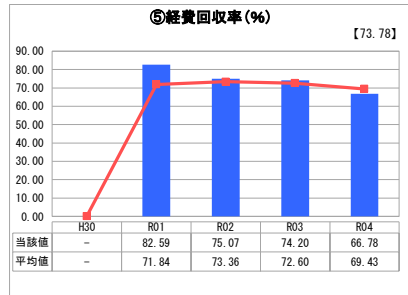
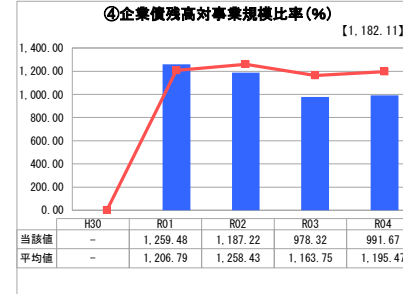
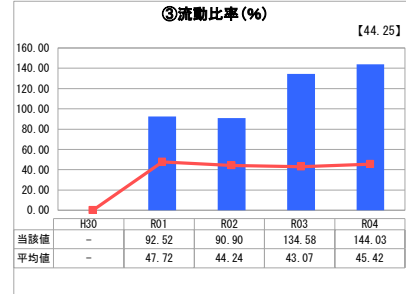
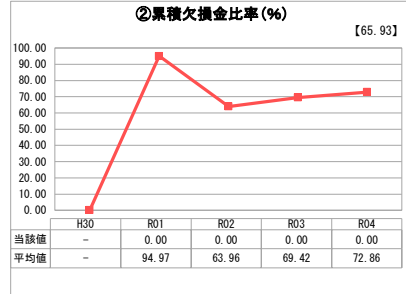
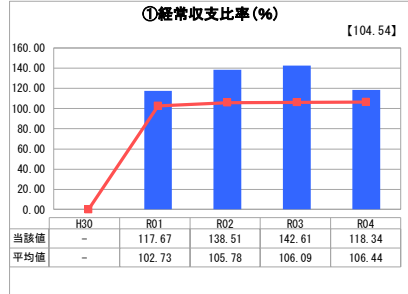
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	58.19	9.40	73.48	2,530

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
60,140	74.59	806.27
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,617	1.98	2,836.87

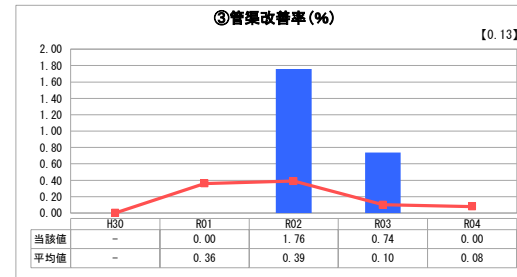
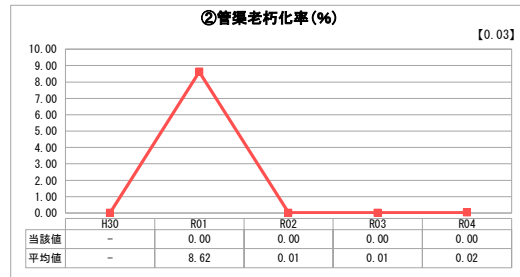
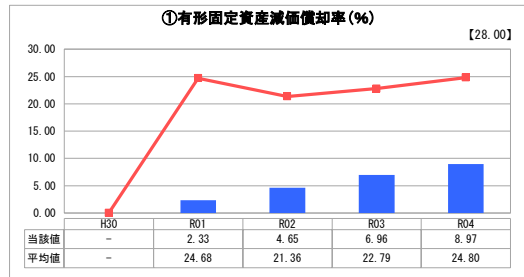
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 1) 経常収支比率(左表1-①)
100%以上であることから、収支は黒字である。また、類似団体平均値と比較しても高い水準である。しかし、未だに繰入金に依存した収入構造となっているため、更なる収入の確保と経費削減に努める必要がある。
- 2) 流動比率(左表1-③)
100%未満であることから、短期的な債務に対する支払い能力は確保されている。
- 3) 企業債残高対事業規模比率(左表1-④)
前年度より微増となり、類似団体平均値と比較して低い水準となっている。引き続き経営戦略に基づき企業債残高の減少に努める。
- 4) 経費回収率(左表1-⑤)
100%未満であることから、使用料収入により汚水処理費用が賅えていない状態にある。また、類似団体平均値と比較しても低い水準である。
- 5) 汚水処理原価(左表1-⑥)
類似団体平均値と比較して大幅に下回っており、有収水量1m³あたりの費用を比較的安く抑えられている。
- 6) 水洗化率(左表1-⑧)
類似団体平均値と比較して下回っている。管渠整備は進んでいるものの、改築に合わせ接続を予定している世帯が多く、更なる接続に向けた普及啓発が必要である。

2. 老朽化の状況について

- 1) 管渠老朽化率(左表2-②)
H10年度から供用開始しており、現在までのところ耐用年数に達した管渠はない。将来の更新需要に備え、現在の経営状況の改善を図り、計画的な施設更新を行う必要がある。

全体総括

経常収支比率及び経費回収率ともに前年度を下回っており、類似団体に比べて低い汚水処理原価であっても、使用料収入で汚水処理費用を賅えていない状態にある。
財源不足分を繰入金で補っており、その割合は依然として大きく、使用料収入等の確保や費用削減に努める必要がある。
また、整備事業が進捗中であり、水洗化率は類似団体に比べて未だ低い水準にあるため、新規整備にあわせ、水洗化率の向上に取り組む必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。